

福岡県高校教育改革実行計画について

国における高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）（2026年2月）概要

1 グランドデザインの背景・必要性

- AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展「2040年問題」
少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化
労働力需給ギャップが発生（事務職は余剰。AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足。）
- 高校教育改革3つの視点
（1）不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長
（2）我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成
（3）一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

2 新しい高校のイメージ

- ①専門高校の機能強化・高度化
- ②普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
- ③地理的アクセス・多様な学びの確保

3 高校教育の充実に向けた国の支援

- 実行計画の策定
都道府県において「高校教育改革実行計画」を策定し、国は「高等学校教育改革交付金（仮称）」等を構築することにより高校生の学びを支援
- 先導拠点の創出
交付金等の構築に先立ち都道府県に基金を造成し先導的な学びの在り方を構築する改革先導拠点の高校を創出

福岡県高校教育改革実行計画策定 検討体制 (R8. 4～)

福岡県教育振興審議会高校教育改革部会委員名簿 (五十音順)

氏名	所属・職名	備考
井本 満	福岡経済同友会 人づくり委員会 副委員長	
瓜生 純子	福岡県立筑前高等学校 校長	
大坪 靖直	福岡教育大学 名誉教授	副部会長
鬼頭 良典	福岡県PTA連合会 会長	
讃井 勝彦	福岡県産業教育振興会 副会長 株式会社サヌイ織物 代表取締役	
猿樂 隆司	宗像市教育委員会 教育長	
志牟田 圭一	筑後市立筑後中学校 校長	
副島 雄児	九州大学 名誉教授 福岡女学院大学・福岡女学院大学短期大学部 学長	部会長
多々野 顕	福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」 校長	
中尾 智浩	筑紫野市立二日市小学校 校長	
中茎 隆	九州工業大学 教授	
宮崎 敏宏	筑前町教育委員会 教育長	

事務局

福岡県教育庁	福岡県	市・組合立学校
教育イノベーション推進課 財務課 施設課 高校教育課 義務教育課 特別支援教育課 体育スポーツ健康課	商工部商工政策課 商工部商工政策課技術人材育成室 農林水産部農林水産政策課 農林水産部経営技術支援課後継人材育成室 農林水産部水産振興課	福岡市教育委員会 北九州市教育委員会 古賀高等学校組合教育委員会 久留米市教育委員会 大牟田市教育委員会

福岡県高校教育改革実行計画 構成（案） 及び 記載の方向性

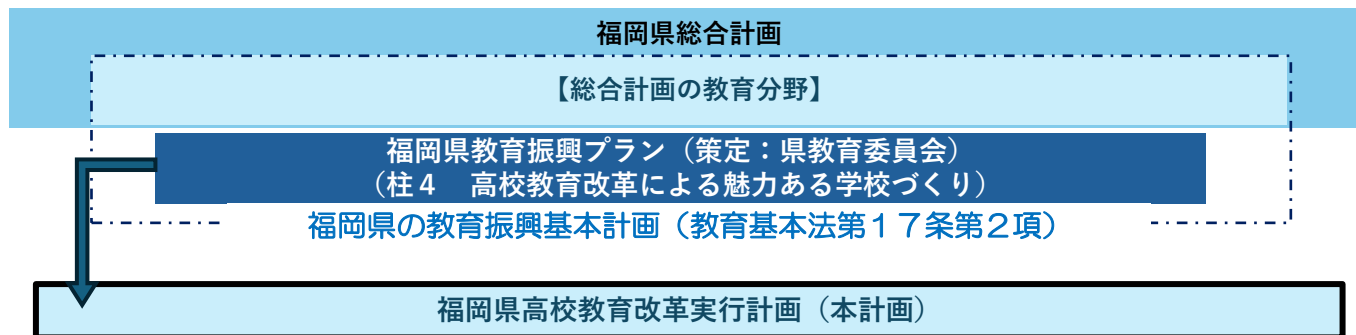
- ・ 全7章構成とし、令和8年度内に策定予定
- ・ 7月までの2回の部会において、全体構成や第3章までの記載概要について審議。今後、交付金等の情報収集と並行し、具体的取組などを検討。
- ・ 審議中のため、以下は記載の方向性。

第1章 本計画について

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画期間
- 4 計画策定までの経緯（検討体制など）

<記載の方向性>

- 教育を取り巻く社会環境の変化の加速、国・地域の経済・社会の発展を支える人材育成、多様な学習ニーズの対応に対する公立高校の役割の重要性から、国の「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」を踏まえ具体的な方針や施策の策定を行う。
- 「福岡県教育振興プラン」の「柱4 高校教育改革による魅力ある学校づくり」に基づき、本県の行政運営の指針である「福岡県総合計画」の教育・産業分野と整合性を図る。
- 2040年に向けた高校教育改革の第1段階として、当面の期間を福岡県教育振興プランと同じく5年間（令和9年度(2027)～令和13年度（2032））とする。



第2章 現状と課題

- 1 公立高校の概況
- 2 公立高校の現状と課題

<記載の方向性>

- 次のような点から本県高校教育を取り巻く状況を整理
 - ・ 生産年齢人口の減少
 - ・ 理系人材や現場人材の不足
 - ・ 文系理系の選択（やや文系が多い傾向）
 - ・ 多様な学びの支援の必要性（不登校の増加、特別支援教育、日本語指導）
 - ・ 特色ある学校づくりの必要性 など
- その上で、次のような点を今後取り組むべき主な課題として記載
 - ・ 専門人材やエッセンシャルワーカー不足への対応
 - ・ AI時代に求められる人材育成
 - ・ 専門高校の機能強化と魅力発信
 - ・ 文理融合の学びやグローバル人材の育成
 - ・ 多様な生徒への支援
 - ・ 地域を支える人材の育成
 - ・ 生徒数の減少と地域・学校間連携
 - ・ 公立高校の魅力化・特色化 など

第3章 高校教育改革の基本的な方向性

- 1 高校教育改革の基本的な方向性
- 2 公立高校の役割

<記載の方向性>

- 前章の現状と課題から導かれる、基本的な方向性を次の4点に集約して記載
 - ・ AIに代替されない能力や個性の伸長
 - ・ 経済・社会の発展を支える人材育成
 - ・ 多様なニーズに応える学びの保障
 - ・ 地域の活性化や課題解決を担う人材育成
- 高校教育改革の確実な推進のため、改めて公立高校の役割を整理して記載
 - ・ 将来の社会を支える人材育成を図る
 - ・ 生徒一人一人の自己実現を可能とする教育を提供する
 - ・ 県内どの地域に居住しても、様々な状況にあっても誰もが質の高い教育が受けられる環境を整える など

第4章 中核となる4つの施策等

- 1 専門高校の機能強化・高度化
 - 2 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
 - 3 地理的アクセス・多様な学びの確保
 - 4 地域と連携した学び
- ※ 改革先導拠点の取組も本章に記載

<記載の方向性>

- 4校の改革先導拠点で実施する取組について、全県的な改革としての位置づけを明記
- 交付金等の活用等も視野に、前章までの取組の方向性を基礎とした具体的な施策について4つの分類で記載
 - 1 専門高校の機能強化・高度化
 - ・ 専門高校と大学等が連携した発展的な学習プログラムの構築
 - ・ 地域企業のエキスパート等を活用した専門分野に特化した指導体制の構築 など
 - 2 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
 - ・ 複雑化する社会課題に対応できる「文理融合型人材」の育成
 - ・ データサイエンスを核とした理系リテラシーの向上 など
 - 3 地理的アクセス・多様な学びの確保
 - ・ 複数校連携による多様な開設科目を受講可能な環境の構築 など
 - 4 地域と連携した学び
 - ・ 地域社会の課題や魅力に注目した学びの機会の創出 など
- これらの取組を実現するために必要となる施設や設備の整備についても記載する。

第5章 公立高校の目指すべき姿と今後の方向性

<記載の方向性>

- 第4章に記載した施策を、生徒・保護者等に理解されやすいよう学科・課程など別に整理し、再掲

第6章 その他の具体的施策

- 1 学校運営の改善
- 2 教育環境の整備・教師を取り巻く環境整備
- 3 高校入学者選抜の改善
- 4 生徒・保護者・県民への周知
- 5 魅力ある高校づくりの推進

<記載の方向性>

- 第4章の取組を推進するために必要なその他の施策として、学校運営の改善、学校施設の整備方針、教員研修の充実・資質向上や入試改善などの取組を記載

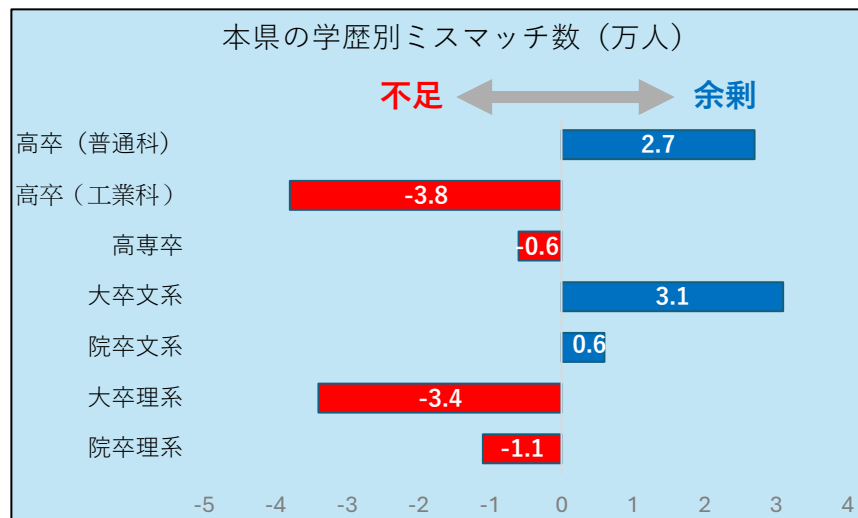
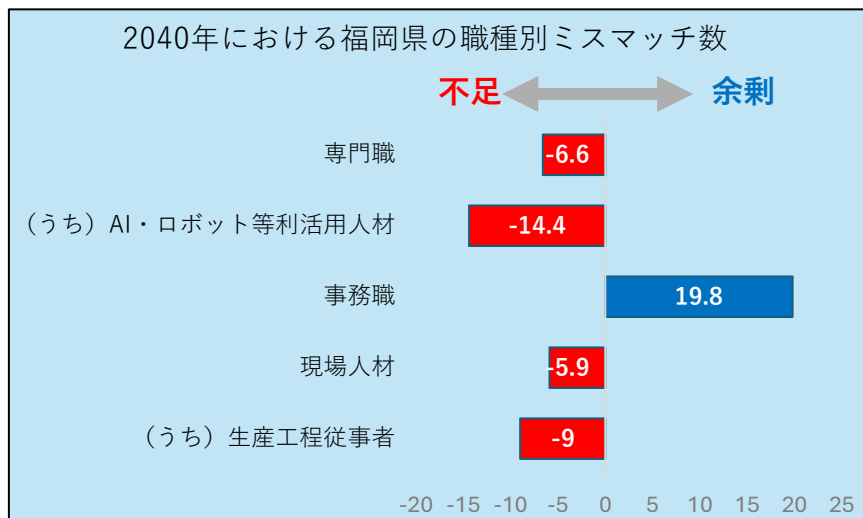
第7章 計画の推進

<記載の方向性>

- 今後の進捗管理や推進体制、数値目標を記載

高校教育の現状と課題から（抜粋）

（1）産業構造の動向 労働力需要ギャップ等（2040年）



出典：2040年の就業構造推計（改訂版）について（2026年3月経済産業省）

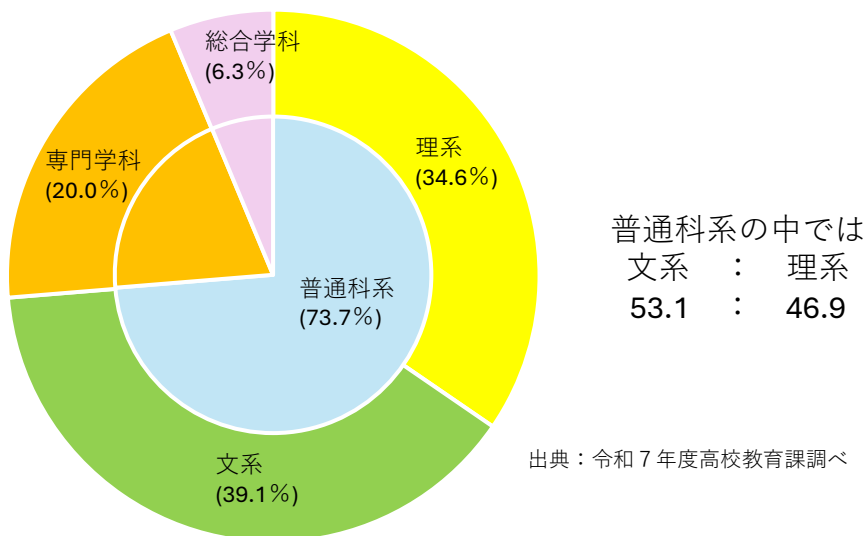
- 経済産業省の「2040年の就業構造推計（改訂版）」によれば、AI・ロボット等の利活用による省力化に伴い、全国同様、本県においても**事務職の需要が減少し19.8万人の余剰**となる一方、AI・ロボット等の利活用を担う人材といった**専門職が6.6万人不足**し、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の**現場人材も5.9万人不足**すると予測されている。
- また、学歴別では、**普通科高校や文系の大学、大学院卒業者が余剰**となる一方、**工業高校や理系の大学・大学院卒業者が不足**すると見込まれている。
- 本県企業へのアンケート調査（令和3年3月）においても、情報通信分野の企業の約9割、情報通信分野以外の企業であっても半数以上が企業のIT人材不足を訴えており、企業のIT化を進める上での喫緊の課題となっている。

(2) 県立高校における文理選択の状況

- 県立普通科高校における文理選択の状況を見ると、国公立大学への進学実績が多い学校では理系選択者が多い一方で、県全体では文系と理系のクラスの割合は**53対47**となっており、文系選択者がやや多い状況にある。また、学科別では**普通科が74%**となっている。

2040年における産業構造の変化や労働力需給ギャップの予測などを踏まえつつ、文理横断的な学びやAI・データサイエンス教育の充実、理数・デジタル系人材の育成、専門高校進学者の増加などを推進する必要がある。

○県立高校における文理選択の状況



出典：令和7年度高校教育課調べ

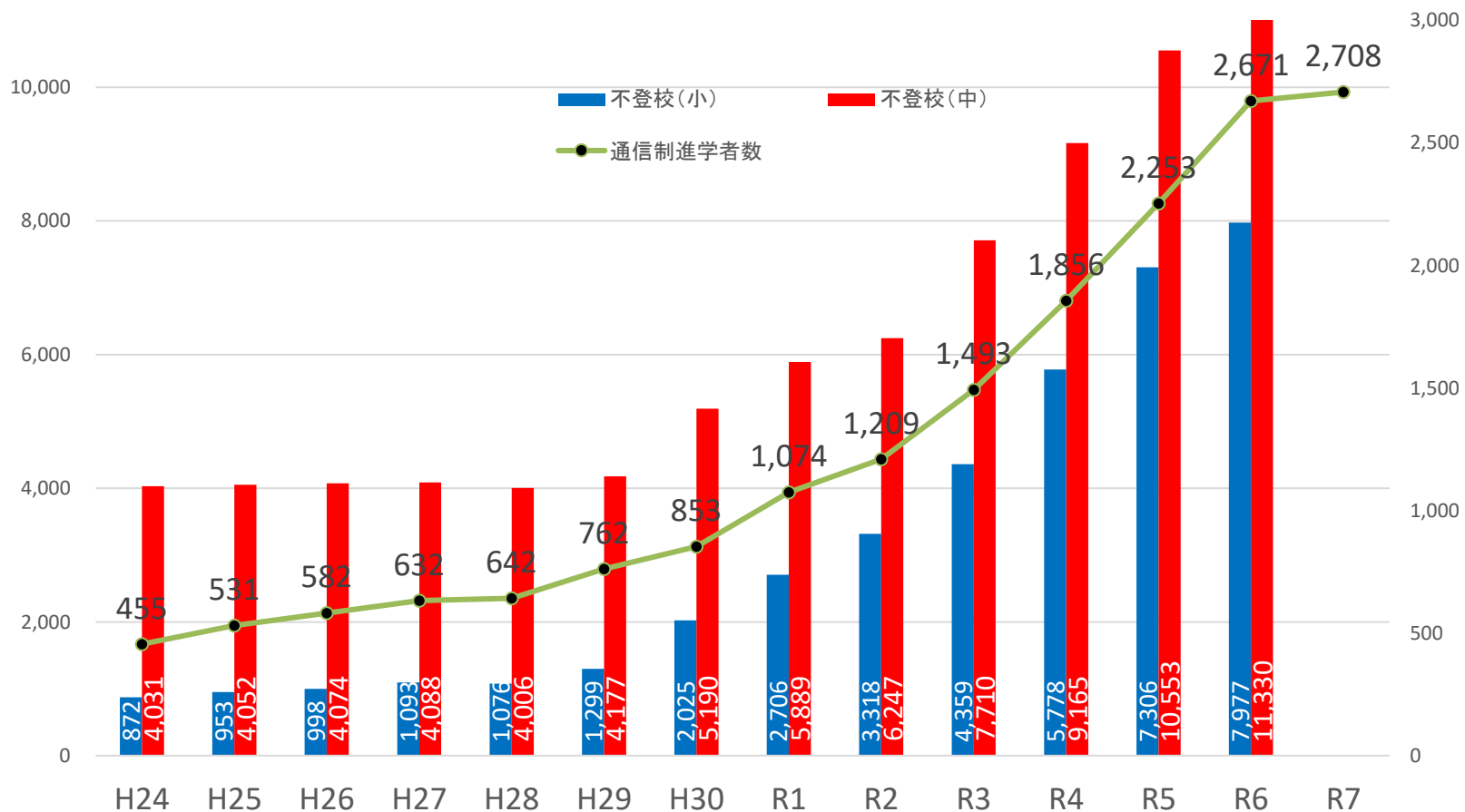
参考：全国調査（公益社団法人日本理科教育振興協会・令和6年度高等学校理系文系進路選択に関する調査）

文系：47% 理系：27% 専門20% 総合学科 5%

文系：理系 = 63.5 : 36.5

(3) 多様な学びへの対応

- 県内公立中学校における不登校生徒数は、令和元年度からの**5年間で約1.9倍**に増加
- 通信制高校進学者数は、**令和元年度比約2.5倍**に増加



県立高校における理数・デジタル人材育成の取組①

理数科

<設置校：6校>新宮高校・嘉穂高校・八幡高校・筑紫丘高校・明善高校・鞍手高校

○理系のスペシャリストを育成するため、理科、数学、情報の教科において理数科独自の
カリキュラムで専門的な授業を展開

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

理数系教育に重点を置いた研究開発（学習指導要領によらないカリキュラム開発・実践や
課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等）を行う高校等を指
定し、将来の国際的な科学技術人材の育成を目指す。

<指定校：2校>鞍手高校（平成24年度～、Ⅲ期目）城南高校（平成22年度～、Ⅳ期目）

※過去の指定校

修猷館高校（平成14年度～平成18年度）、小倉高校（平成17年度～令和3年度）

八幡高校（平成23年度～平成29年度）、香住丘高校（平成23年度～令和4年度）

嘉穂高校（平成23年度～平成29年度）、明善高校（平成23年度～令和5年度）

東筑高校（平成25年度～令和元年度）

県立高校における理数・デジタル人材育成の取組②

DXハイスクール

未来のデジタル社会を支える人材を高校段階から育てるため、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、デジタルものづくり等生徒の興味関心を高める活動や、大学や企業等と連携した学習、ICTを活用し、文系・理系の枠を超えて探究的な学びを強化する学校（DXハイスクール）に対して、必要な環境整備の支援を行っている。

「重点類型」では、類型ごとに要件を満たすための取組を重点的に実施している。例えば、探究活動を充実させる「特色化・魅力化型」や専門高校において、産業界等と連携し最先端の職業人材を育てる「プロフェッショナル型」などがある。

●基本類型（23校）

（R8.4.1）

京都	小倉商業	小倉工業	戸畑工業	八幡工業	水産	新宮
須恵	香住丘	筑紫丘	柏陵	福岡中央	福岡工業	春日
福岡農業	筑紫	糸島	伝習館	三池工業	朝倉	田川
嘉穂総合	鞍手竜徳					

●重点類型（4校）

八幡	特色化・魅力化型
香椎工業	プロフェッショナル型 （半導体重点枠）
八女工業	プロフェッショナル型 （半導体重点枠）
浮羽工業	プロフェッショナル型

県立専門高校における産業界・経済界と連携した人材育成の取組①

社会人特別講師招聘事業

専門高校において、豊かな経験や知識・技術を有する社会人を招き、直接指導を受けるもの

○過去3年間の実績

年度	学校数	実施時間
令和5年度	28校	469時間
令和6年度	28校	447.5時間
令和7年度	28校	511時間

県立工業高校産業人材育成事業

- 高度ものづくり技能育成事業（北九州地区・筑後地区） 高精度な加工技術や先端技術を身に付けた人材の育成
- 3次元CAD活用能力育成事業（福岡地区・筑豊地区） 先端設計技術の基礎・基本を身に付けた人材の育成
- 産学官連携産業人材育成事業（全工業高校13校） 地域の産業界等と連携し、実践的な技術・技能の習得を目指す
 - ✓ 企業における生徒の教育・訓練
 - ・北九州地区 679名 ・福岡地区 609名 ・筑後地区 522名 ・筑豊地区 70名
 - ✓ 企業の高度熟練者による学校での実践的な実習指導
 - ・北九州地区 153時間 ・福岡地区 83時間 ・筑後地区 134時間 ・筑豊地区 9時間
 - ✓ 教員等の企業での技術研修
 - ・北九州地区 7名 ・福岡地区 7名 ・筑後地区 8名 ・筑豊地区 3名
- 自動車・半導体産業人材育成事業（筑後地区 工業高校3校） 自動車・半導体関連産業を支える人材の育成

農業高校DX人材育成事業

農業高校においてスマート農業機器を活用した実習を導入するとともに、先進農家等へのインターンシップ（現場実習）や外部専門講師を招聘した学習を実施することで、高度な技術を持った人材を育成する。

県立専門高校における産業界・経済界と連携した人材育成の取組②

商業高校・工業高校・大学の高大連携協定

県立小倉商業高校、県立小倉工業高校、西日本工業大学

- 地域の課題解決に向けた専門的知見を融合させた高大連携事業を行い、必要とされる人材育成プラットフォームの構築につなげる連携協定

みらうみプロジェクト

県立水産高校、福岡県、福岡県海洋開発協会、
福岡県漁業協同組合連合会

- 生徒の教育・育成(潜水業務実習、ブルーカーボン創出実習、就職ガイダンス)、現地学習などにおける連携・協力



産学官連携の協定（水産高校にて）

ふくおか未来型園芸農業創出コンソーシアム

福岡県農林業総合試験場、企業、大学、JAグループ、農研機構九州沖縄農業研究センター、
福岡県教育委員会、生産者

- 研究開発、人材育成、技術普及において連携するコンソーシアム
- 個別プロジェクトでは、イチゴの生産性向上やインターンによる高校生のスキルアップ支援などの人材育成等

県立高校における特色ある普通科の学科・コースの設置状況

県立高校では、生徒の多様な興味関心や学習ニーズに応じ、普通科系の特色ある学科・コースを設置している。

区分	学科・コース	学校名（コース名）
学科	理数科（６校）	新宮 嘉穂 八幡 筑紫丘 明善 鞍手
	英語科（４校）	北筑 香住丘 久留米 嘉穂東
	芸術科	太宰府
	文理共創科	八幡
コース	体育・スポーツ（６校）	北九州（体育） 三井（スポーツ健康） 直方（スポーツ科学） 三潁（スポーツ文化） 早良（スポーツコミュニケーション） 嘉穂（武道・日本文化）
	国際文化	玄界
	福祉教養	三井
	芸術	八幡中央
	理数系（３校）	城南（理数） 山門（理数探究） 香住丘（数理コミュニケーション）
	環境科学	柏陵
	文科系（２校）	明善（総合文科） 鞍手（人間文科）
	総合（４校）	東鷹 浮羽究真館 嘉穂総合 大川樟風
	文理	大川樟風
	情報・ビジネス	遠賀（情報ビジネス、情報科学）
	生活創造	遠賀
	みらい創造	小郡 ※学びの多様化学校